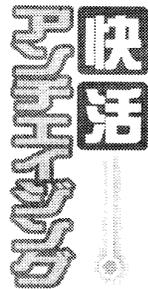


■ロボスキンアナライザー

<第三种郵便物認可>

平安時代は下膨れのおかめ顔、江戸時代はうりざね顔、戦後は面長の八頭身、現代は長身で丸顔という具合に見かけの美人の尺度は時代とともに変化する。しかし変わらない美の基準のひとつが「若さ」だ。

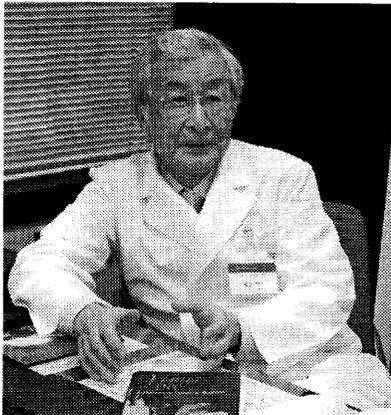
北里大学名誉教授で国際形成外科学会副理事長でもある塩谷信幸さんは「過剰に若さを求める昨今のユースカルト(若さ崇拜)は見直すべき点が多い。そのためにも誰もが納得できる見ためのアンチエイジングの基準を早急につくりたい」と話す。また日本人の平均顔を研究する北海道情報大の情報メディア学部准教授の向田茂さんは「10代から60代までの平均顔を分析すると、老化にはシワやたるみ、張りなど肌質の変化が大きく影響しており、万人に共通する点も多い」と指摘する。



ロボスキンアナライザー

■4■

若さ崇拜より年相応の肌



「年相応の老化和いとうあいたの基大
まいな表現を具具体し見の北里
目のアンチエイと語る北里
準にした」と塩谷信幸
学名譽教授の塩谷信幸

皮膚を老化させる原因は▽紫外線▽活性酸素による皮膚の酸化▽保湿成分と皮脂分泌量の減少による皮膚の乾燥▽真皮のコラーゲンやエラスチンの減少による皮膚のひ薄化(薄くなること)など。現在行われているシミ、シワ、たるみ、くすみなどの肌の老化に対する皮膚科領域での治療法には▽化粧品▽レチノイドやビタミンC誘導体などの外用薬▽ケミカルピーリング▽レーザー療法▽ヒアルロン酸、コラーゲン、脂肪などの注入療法▽ボツリヌス毒素注入療法▽外科手術などがあ

塩谷さんは医師として1956年に渡米、受刑者たちの顔の傷や入れ墨などを形成外科手術で取り除き社会復帰を後押しするリハビリプログラムに62年から2年間参加。100人ほどの受刑者たちの手術を行った経験から「見かけで損をした人々が形成外科手術を受けて、うれしそうに満足する姿が強く印象に残っている。美容外科はメスで体の傷や形を治し、患者の心を癒やす医療。医師側が商業主義的な姿勢で次々と若返り治療を勧めたり、患者側が過剰な若返りを求めたりせず、年相応のアンチエイジングを心がけることが重要だ」と語る。

「ロボスキンアナライザー」という計測機器は「肌の水分」「皮脂量」「肌の明るさ」「色素沈着の量」「大きな毛穴の数」「シワの数」「皮膚密度(キメ)」などが数値化されて

「ロボスキンアナライザー」という計測機器は「肌の水分」「皮脂量」「肌の明るさ」「色素沈着の量」「大きな毛穴の数」「シワの数」「皮膚密度(キメ)」などが数値化されて

「ロボスキンアナライザー」という計測機器は「肌の水分」「皮脂量」「肌の明るさ」「色素沈着の量」「大きな毛穴の数」「シワの数」「皮膚密度(キメ)」などが数値化されて

うやま・けいこの「オールアウトのアンチエイジング」を始める。新間経社、広告会社勤務。取材は700人以上を取材。英仏語の医療記事の翻訳や海外取材もこなす。

この機器を使って皮膚の研究を行っている近畿大学アンチエイジングセンター副センター長の山田秀和さんは「皮膚は内臓の鏡、と昔から言われてきたが、皮膚を見れば内臓の老化がわかる、ということを実証し、アンチエイジングに役立てたい」と普及に意欲をみせている。

(医療美容ジャーナリスト 宇山恵子)